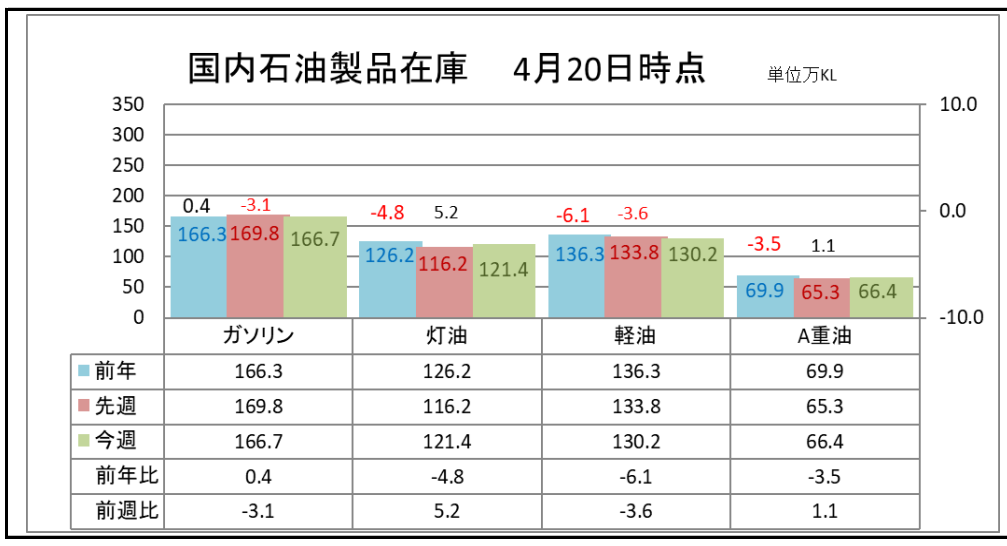
イデックスオイルレポート　~For a week~

2024/4/26作成（株)新出光

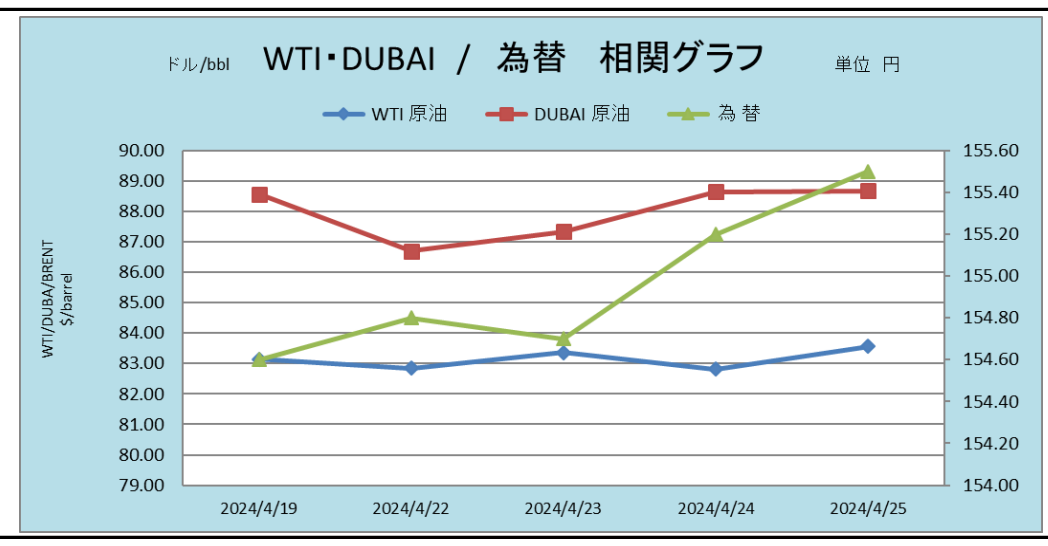
【概況】

●19日、米メディアは、イスラエルが19日、イランを攻撃したと報道。イランのメディアによると、中部イスファハンの軍事施設近くで複数の爆発音が確認された。イランによる13日の対イスラエル大規模攻撃の報復とされており、両国の対立激化への懸念が拡大。原油は買いが優勢となった。ただ、今回の攻撃は限定的との見方やイラン政府高官による対イスラエルへの即時の報復計画はないとの示唆を背景に、中東情勢の緊迫化に伴う供給不安が幾分後退。取引序盤は売りが優勢となる場面もあり相場は83.14ドルへ小幅続伸しました。
●22日、中東情勢の緊迫化を巡る懸念が和らぐ中、原油相場は早朝、一時81ドル台まで下落。その後、テクニカルな買いや夏場に供給がタイトになるとの観測など需給要因に着目した買いが入り、プラス圏に浮上する場面もあったものの、戻りは限定的だった。イスラエルとイランの報復攻撃の応酬が落ち着き、双方は幕引きを図っているとの観測が台頭。中東地域の紛争が拡大し、原油供給の混乱に波及するとの警戒感が後退し相場は82.85ドルへ反落しました。
●23日、外国為替市場では対ユーロでドル売りが優勢。ドル建てで取引される商品の割安感につながり、原油が買われる展開となった。イランとイスラエル間の対立は今のところ小康状態となっているものの、イスラエルはパレスチナ自治区の最南部ラファへの軍事侵攻をなお計画中とされ、中東情勢緊迫化への警戒感は依然としてくすぶっており相場は83.36ドルへ上伸しました。ただ、23～24日にかけて官民が発表する週間石油在庫統計では原油在庫の積み増しが予想されている。需給の緩みに対する警戒感も出ております。
●24日、中東情勢の緊迫化に伴うエネルギー供給不安を背景とした買いが一巡したことが相場を下押した。市場では、イスラエルとイランの対立激化の過程で、原油相場にかなりの「リスクプレミアム」が上乗せされたとみられており、両国の攻撃応酬がひとまず収まっていることで、相場は82.81ドルへ反落しました。ただ、イスラエル国防省高官の話として、パレスチナ自治区ガザでイスラム組織ハマスと交戦を続けるイスラエル軍が、ガザ最南部ラファへの地上侵攻に向けた準備を全て完了したと報道するなど、中東情勢の先行きには依然として不透明感がくすぶっている。
●25日、朝方発表された1～3月期の米実質GDP（国内総生産）速報値は、年率換算で前期比1.6%増に大きく鈍化。一方、個人消費支出（PCE）物価指数は3.4%上昇し、インフレ圧力の根強さを改めて示す内容となった。これを受け、景気後退とインフレが同時進行するスタグフレーションに対する警戒感が台頭し、相場は83.57ドルへ反発しました。

4月26日	16:00現在	WTI原油	83.94ドル	為替　1ドル	157.21円



	ガソリン	灯油	軽油	A重油
前年	166.3	126.2	136.3	69.9
先週	169.8	116.2	133.8	65.3
今週	166.7	121.4	130.2	66.4
前年比	0.4	-4.8	-6.1	-3.5
前週比	-3.1	5.2	-3.6	1.1



	次回元売変動予測 5/2～	元売変動予測
ガソリン	→	+1.0～+1.5
灯　油	→	+1.0～+1.5
軽　油	→	+1.0～+1.5
A 重 油	→	+1.0～+1.5
L S A	→	+1.0～+1.5

※原油コスト「+1.0円～+1.5円」
※激変緩和補助金「-30.2円」　前週比±0円
※現時点での予測です。

【製品卸価格】

≪今週≫今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「▲1.0円」、補助金は、「-30.2円・60%」、都合「▲1.2円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの22日時点の小売価格平均は175.0円となっております。
≪5月2日以降≫次回の元売り改定は、原油コスト（OSP含む）は「1.0円～1.5円」、激変緩和補助金は「-30.2円・60%」の見込みで、都合「1.0円～1.5円」の改定の予測となっています。

【次世代エネルギー】　＜米ハネウェル、ENEOSに水素技術を提供　日本の基地向け＞

米国の重工大手ハネウェル・インターナショナルはENEOSホールディングス（HD）に水素輸入基地の技術を提供する。ENEOSの日本の石油関連設備を輸入基地にし、2028年にも稼働させる計画。水素は次世代エネルギーの一つとして期待されており、日本で輸入基地が整備されれば普及が加速する。
ENEOSは水素をトルエンと化合させて常温・常圧で液体の化学品に変換し、タンカーで日本に輸入する計画を公表している。ハネウェルは水素とトルエンを分離する技術を有しており、ENEOSの日本の輸入基地に技術を提供する。同社の技術を導入した大型輸入基地は、年数千トンから10万トンの水素を製造できるという。日本ではこれまで千代田化工建設や川崎重工業などが少量を試験的に輸入したことがあるが、大型の輸入基地はない。ENEOSは国内にある複数の輸入基地でハネウェルの技術を導入する方向で検討しているという。水素の輸入方法を巡っては、マイナス253度に冷却して液化したり、アンモニアに変換したりして運搬する手法が検討されている。トルエンを使って化学品に変換する輸送はアンモニアより安全性に優れ、既存の石油化学インフラを活用するため初期投資額が少ないという利点がある。
ENEOSはガソリン需要の減少に伴い和歌山県など全国で相次いで精製設備を閉鎖しており、水素を次の成長の柱にする計画だ。
日本は50年に年2000万トンの水素を供給する計画で、水素エネルギーで経済構造の脱炭素を進める。

［出典］日経電子版　https://www.nikkei.com/nkd/industry/article/?DisplayType=1&n_m_code=024&ng=DGXZQOGN29EJI0Z20C24A2000000

© 2024 SHIN-IDEMITSU Co.,Ltd.ALL rights reserved.